

# 荻窪高校から

令和5年6月7日

都立荻窪高校副校長 延味 道都

日頃お世話になっている近隣の皆様に荻窪高校の防災への取り組みを紹介いたします。

荻窪高校では、5月25日(木)に避難訓練を実施しました。避難訓練では自助・共助・公助の話をします。特に自助について、まず生き残るように話をしました。ネットで東京都の警察官の数を検索すると、令和4年度の数字のようですが44,420人です。東京都の消防官は同じく18,655人。合計で63,075人、ざっくりと考えると6万3千人といえるでしょう。一方、東京都の人口は、東京都の推計では、令和5年5月1日現在で14,085,336人だそうです。ざっくりと考えると1千4百万人というところでしょう。荻窪の高校の生徒は在籍が約500人ほどです。東京都の人口からみれば0.0035%程度になってしまいます。災害時にはすべての警察消防が対応に出るとしても、2,249人程度、つまり2.3人程度しか割り当てはしないことになります。



ちなみに令和4年8月1日現在の杉並区の人口は571,920人。東京都の人口からみれば約4%くらいです。すると杉並区に割り振られる警察消防は2,500人程度となってしまいます。あくまで数字上の話ですが、皆さんはこれを多いと考えますか、それとも少ないと考えるでしょうか。自分が生き残る(自助)ために何ができるのでしょうか。

避難訓練のあとに、自衛隊による防災講話を行いました。防衛省自衛隊東京地方協力本部高円寺の募集案内所の地域担

当広報官の方に来ていただきました。

私は地震が来たらまず一番に火の始末と覚えてきました。しかし、考えを改める必要があるようです。防災講話のなかでの指摘は、ガスレンジの自動消火機能です。最近のガスレンジは、地震の際の自動消火機能がついているものが増えてきています。ご自宅のガスレンジは、いかがでしょうか。自動消火機能がついている場合には、火の始末よりも自分の身の安全を優先できるということになるからです。これを目から鱗が落ちるといえるでしょう。この他にも何点かあって目からいっぱい鱗が落ちたのですが、ご紹介は一つにしておきたいと思います。



荻窪高校は、「校内別室指導推進事業」(不登校生徒のための対応をします)に今年度指定されました。校内での居場所づくりや教室外での学習指導が計画されています。この他にもスクールカウンセラーやソーシャルワーカーが配置されており、生徒の様々な課題に対応しています。ここ数年では日本語を母語としない生徒のために日本語の学習の機会を設けてきましたが、今年度から日本語の授業が開始されます。日本語の学習には、荻窪高校近隣の20名ほどの方々にボランティアとしてご協力いただいています。

荻窪高校は、「校内別室指導推進事業」・「Scientific Inquiry Program(SIP)拠点校事業」・「特別支援教室及び通級による指導に関する研究」研究協力校などに指定されています。